

日本農芸化学会東北支部 第158回大会

「農芸化学のネットワークに活かす次世代放射光施設 NanoTerasu」

2023年12月2日に東北大学青葉山コモンズで開催された公益社団法人日本農芸化学会東北支部 第158回大会で、特別公演として「農芸化学のネットワークに活かす次世代放射光施設」が行われ、原田昌彦センター長の司会で4名の演者が農芸化学領域での放射光研究利用の事例を紹介し、東北・北海道地区の連携や将来を見据えた活発な討論が行われました。



放射光 X 線領域と農芸化学の連携構築
～事例と展望～
日高 将文 氏 (東北大院・農)



岩手大学大学院連合農学研究科と放射光施設
ナノテラスを介したネットワークについて
ー植物と琥珀への利用例ー
木村 賢一 氏 (岩手大・農)



「土壌中のヒ素動態と水稻のヒ素吸収低減
ー放射光による要因解析ー」
牧野 知之 氏 (東北大院・農)



食品工房ー工学ー農芸化学の連携を目指して
～X 線散乱による食品構造解析～
大沼 正人 氏 (北大院・工)